

6月の植物

ドクダミ（ドクダミ科）

学名：*Houttuynia cordata* Thunb.

ドクダミはやや湿った日陰に生える多年草。この時期、可愛らしい白い花がひととき目立つ。白く花弁のように見えるのは総苞片。ほとんどのものは4枚だが、たまに5枚以上のものもある（写真2）。本当の花はというと、長さ1～3cm穂状の部分に淡黄色の小さな花をたくさんつけている。また、総苞片をたくさんつける八重咲きのものもあるらしい。当会のホームページには「資料室」があり、そのなかに倉成靖任先生による「野山に輝く植物たち」というフォトアルバムのページがある。そこに多重弁（八重咲き）のドクダミが紹介されているので、ぜひ見ていただきたい。

ご存じのとおりドクダミは臭い匂いを放つため、雑草として少々厄介者扱いされがちだが、生薬名を「十薬」、「重薬」と呼び、昔から民間薬として利用されてきた。今回、花を集めて焼酎に漬け込み「ドクダミチンキ」を作ってみた（写真3）。見た目も可愛く、しばらく目でも楽しめそうである。1～2週間後、虫よけやかゆみ止めに使えるそうである。効果については、またの機会に報告したい。

（文・写真：伊藤幸子）



写真1

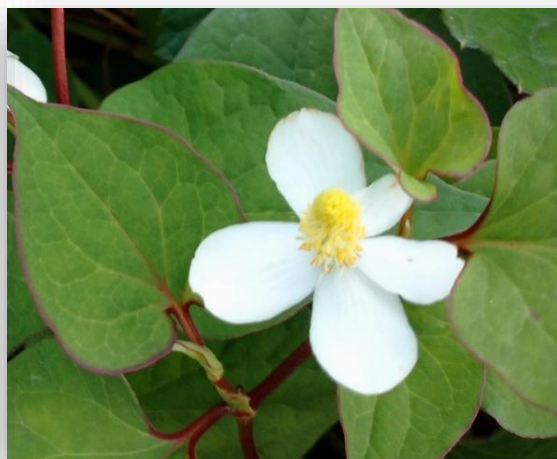


写真2 5弁のドクダミ



写真3 ドクダミチンキ

【参考文献】

日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類
（平凡社・1982）
身近な薬草一覧（野中源一郎/監修
佐賀県健康福祉部薬務課・2024）